



第10期 決算説明資料

2017年2月
株式会社sMedio
(東証マザーズ:3913)

本資料の複写、転用はしないで下さい

- ◆ 本資料は、2017年2月13日現在において、利用可能な情報に基づいて、当社（連結子会社を含む）の事業および業界動向に加えて、当社による現在の予定、推定、見込み、または予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- ◆ これらの将来の展望には、様々なリスクや不確実性が内在しています。既知、もしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと保証することはできず、実際の結果が将来の展望と著しく異なることもありえます。

第10期 決算概要

- 業績サマリー 5
- 売上高 6
- 営業利益 7
- 経常利益 8
- 収益区分別売上構成 9
- 連結貸借対照表 10
- ライセンス数の推移 11

第11期 事業計画

- 計画サマリー 13
- 売上高 14
- 営業利益 15
- 経常利益 16
- 2016年の成果、出荷製品 17
- 2017年の重点施策、出荷予定製品 26

The logo for sMedio, featuring the word "sMedio" in a bold, sans-serif font. The "s" is dark blue, "Medio" is white with a blue outline, and the "i" is red. A small satellite icon is positioned above the "o". The logo is centered within a white circle that has a thick blue border.

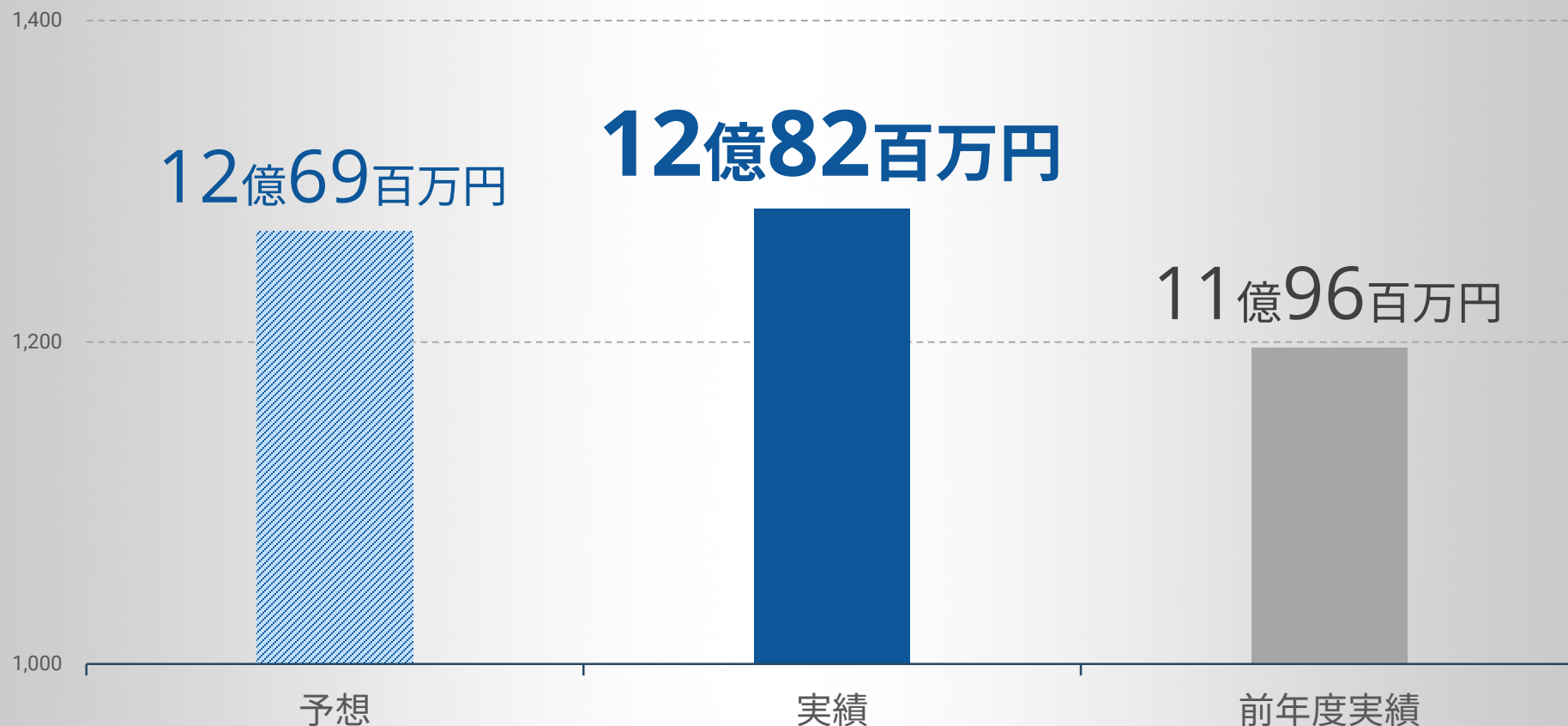
sMedio

第10期 決算概要

	2016年12月期 予想	2016年12月期 実績	増減額	増減率
売上高	12億69百万円	12億82百万円	+13百万円	1.1%
営業利益	2億30百万円	1億75百万円	△55百万円	△23.8%
経常利益	81百万円	38百万円	△43百万円	△53.2%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	38百万円	△3百万円	△42百万円	△110.0%

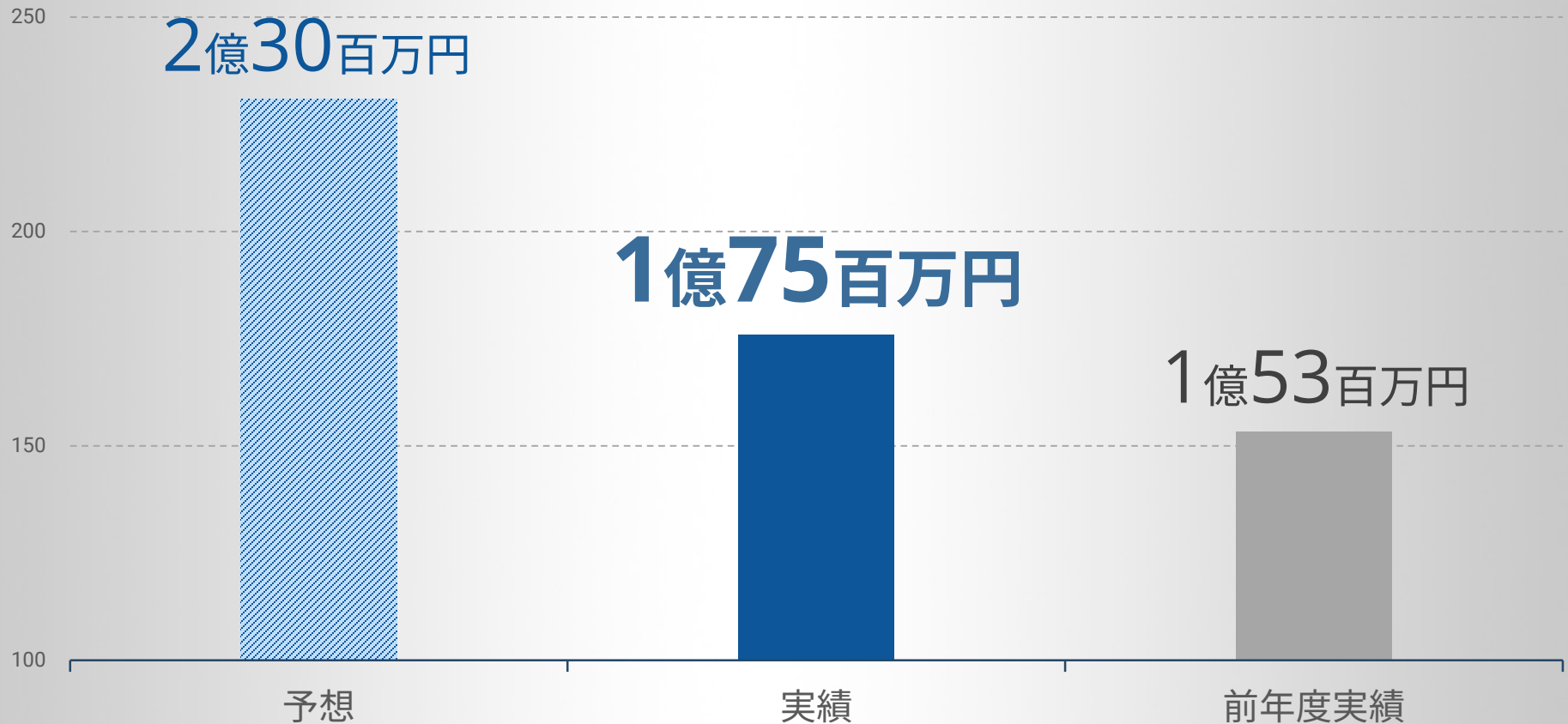
売上高(対業績予想、対2015年実績)

🌀 前期比8千6百万円の増収となりました。



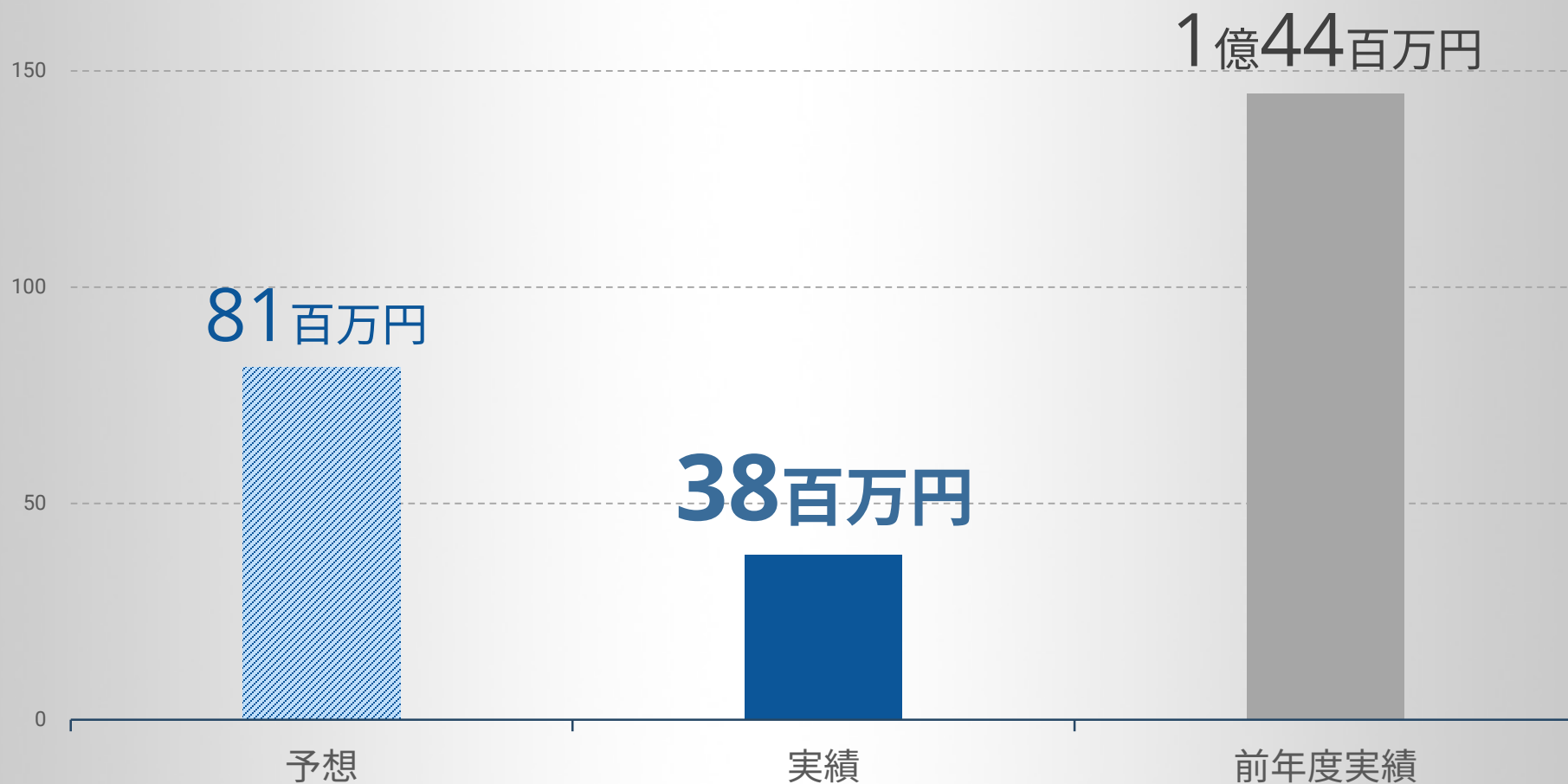
営業利益(対業績予想、対2015年実績)

🌀 前期比2千2百万円の増益となりました。



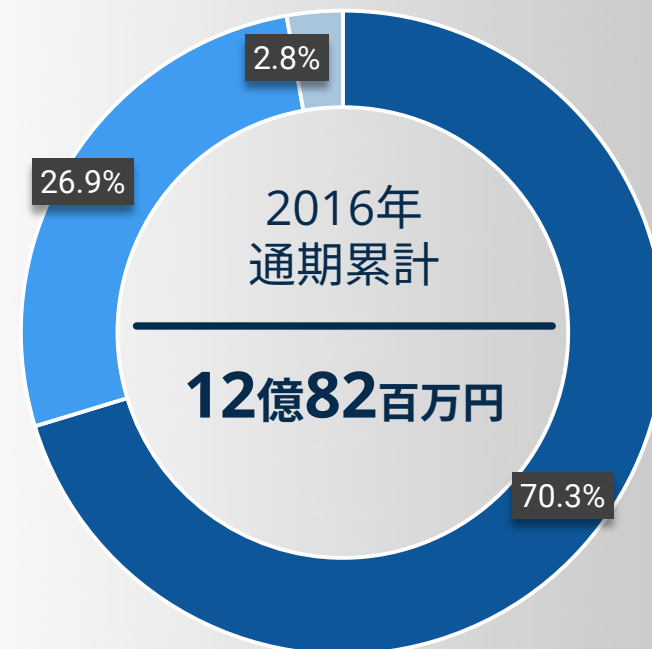
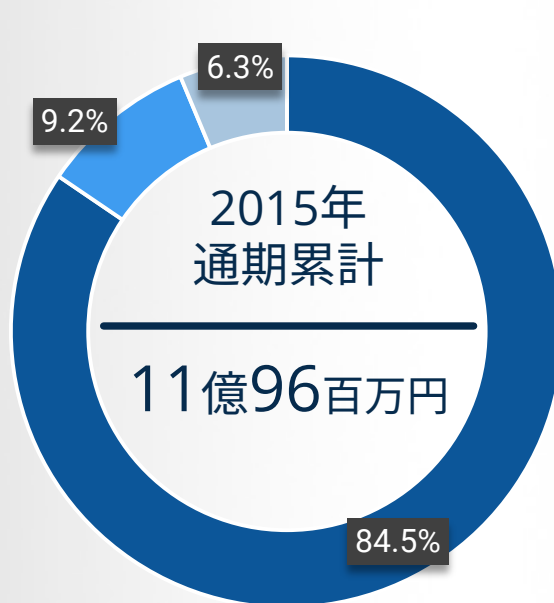
経常利益(対業績予想、対2015年実績)

為替差損1億3千7百万円を計上したことで、前期比1億6百万円の減収となりました。



収益区分別売上構成(対2015年実績)

収益区分	2015年12月期		2016年12月期	
	金額	割合	金額	割合
ライセンス収入	10億11百万円	84.5%	9億1百万円	70.3%
開発費収入	1億10百万円	9.2%	3億45百万円	26.9%
サポート費収入	75百万円	6.3%	36百万円	2.8%
合計	11億96百万円	100.0%	12億82百万円	100.0%



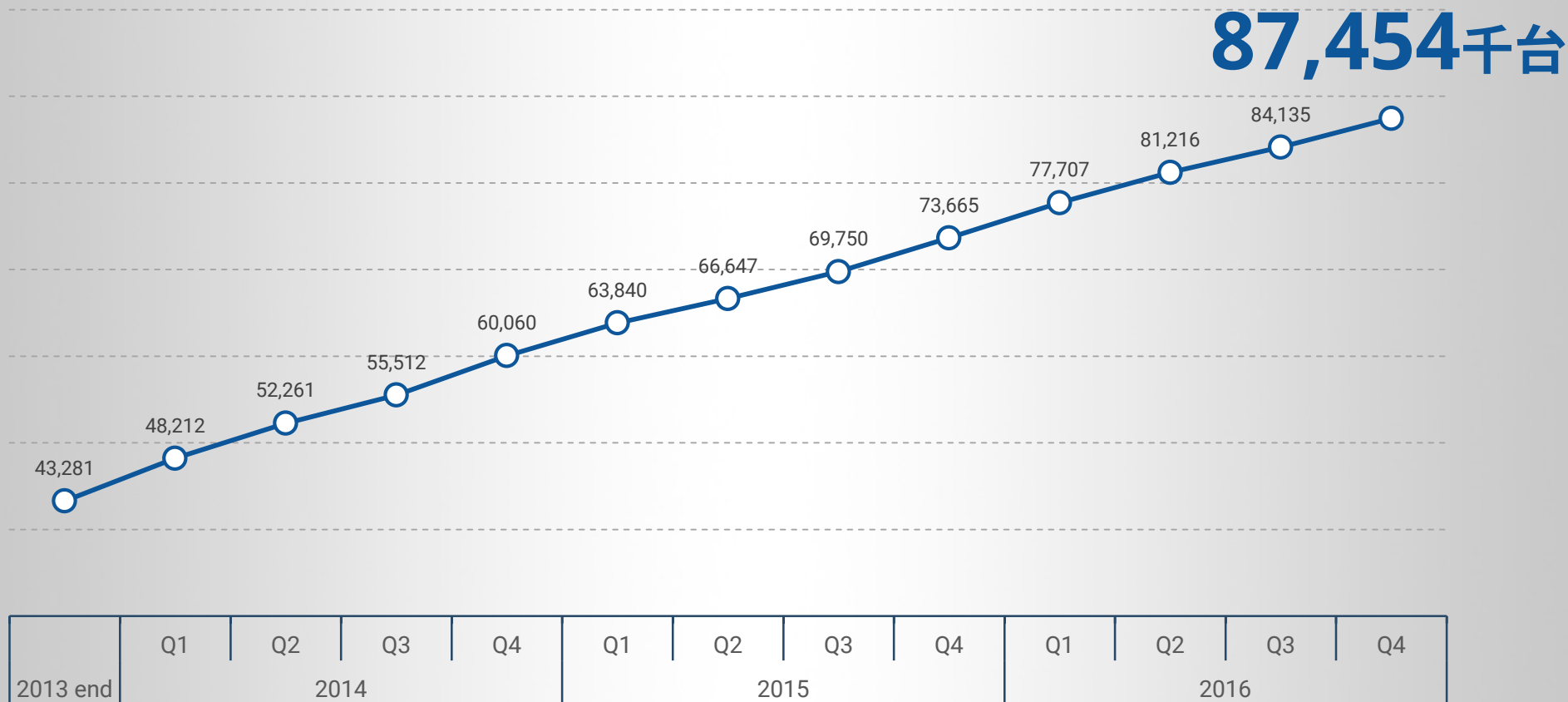
- ライセンス収入
- 開発費収入
- サポート費収入

連結貸借対照表(対2015年実績)

科目		2016年 期末	2015年 期末	前期末比	主な要因
	流動資産	1,874百万円	1,527百万円	347百万円	ライセンス費用の前払による増加
	(内現預金)	1,364百万円	1,340百万円	24百万円	
	固定資産	291百万円	195百万円	96百万円	タオソフトウェア買収に伴うのれんの増加
資産合計		2,166百万円	1,723百万円	443百万円	
	流動負債	245百万円	182百万円	63百万円	ライセンス費用の前払いに充当するための3億7千万円の長期借入
	固定負債	268百万円	20百万円	248百万円	
	負債合計	513百万円	202百万円	311百万円	
	純資産	1,652百万円	1,520百万円	132百万円	タオソフトウェアとの株式交換時の資本剰余金
負債+純資産合計		2,166百万円	1,723百万円	443百万円	

ライセンス数の推移

🌀 ライセンス数は毎四半期順調に伸長。



出典：顧客からのレポートを基に作成


ライセンス収益はsMedioの収益性を確保する重要かつ安定した収入源

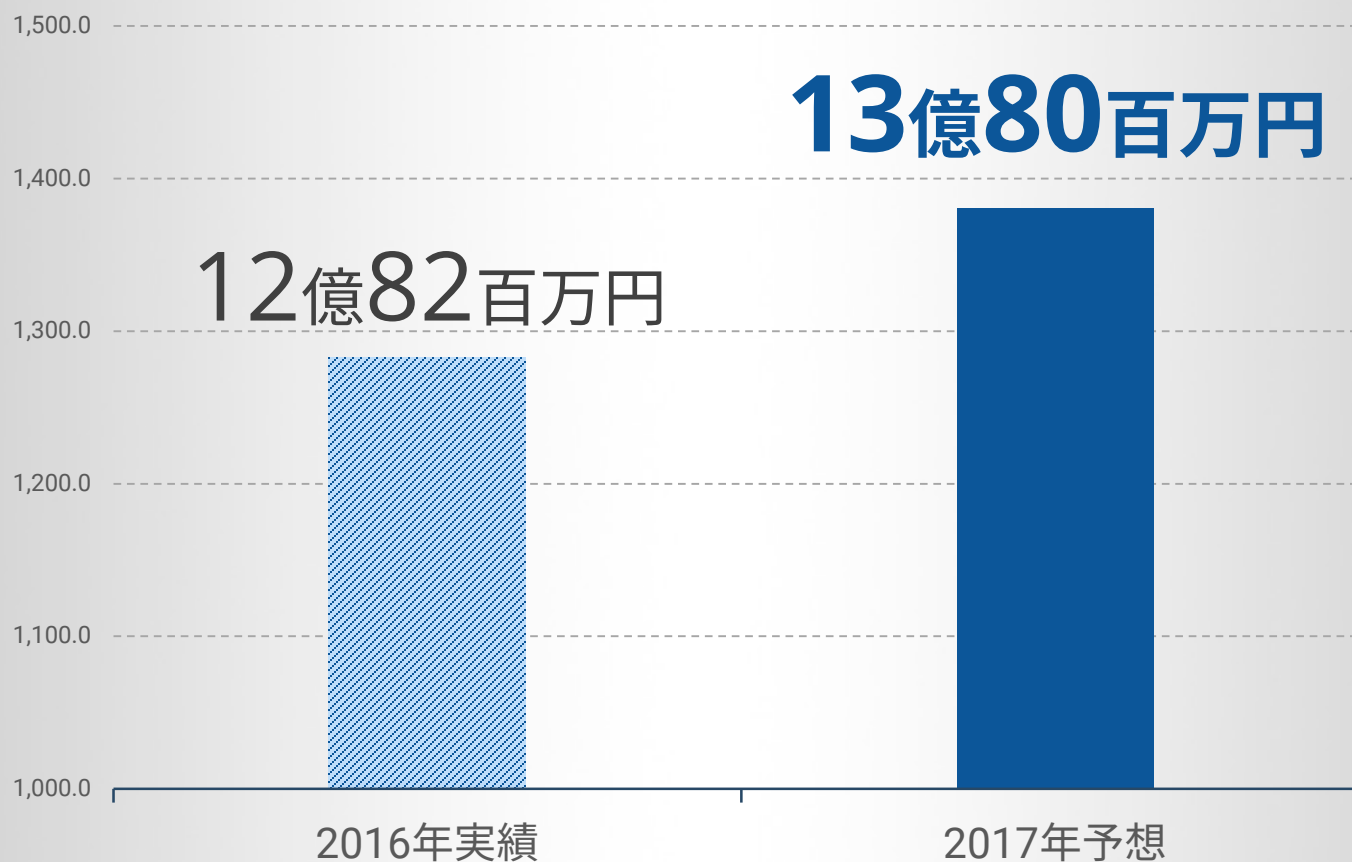
The logo for sMedio, featuring the word "sMedio" in a bold, sans-serif font. The "s" is dark blue, "Medio" is white with a blue outline, and the "i" is red. A small satellite icon is positioned above the "o". The logo is centered within a white circle that has a thick blue border.

sMedio

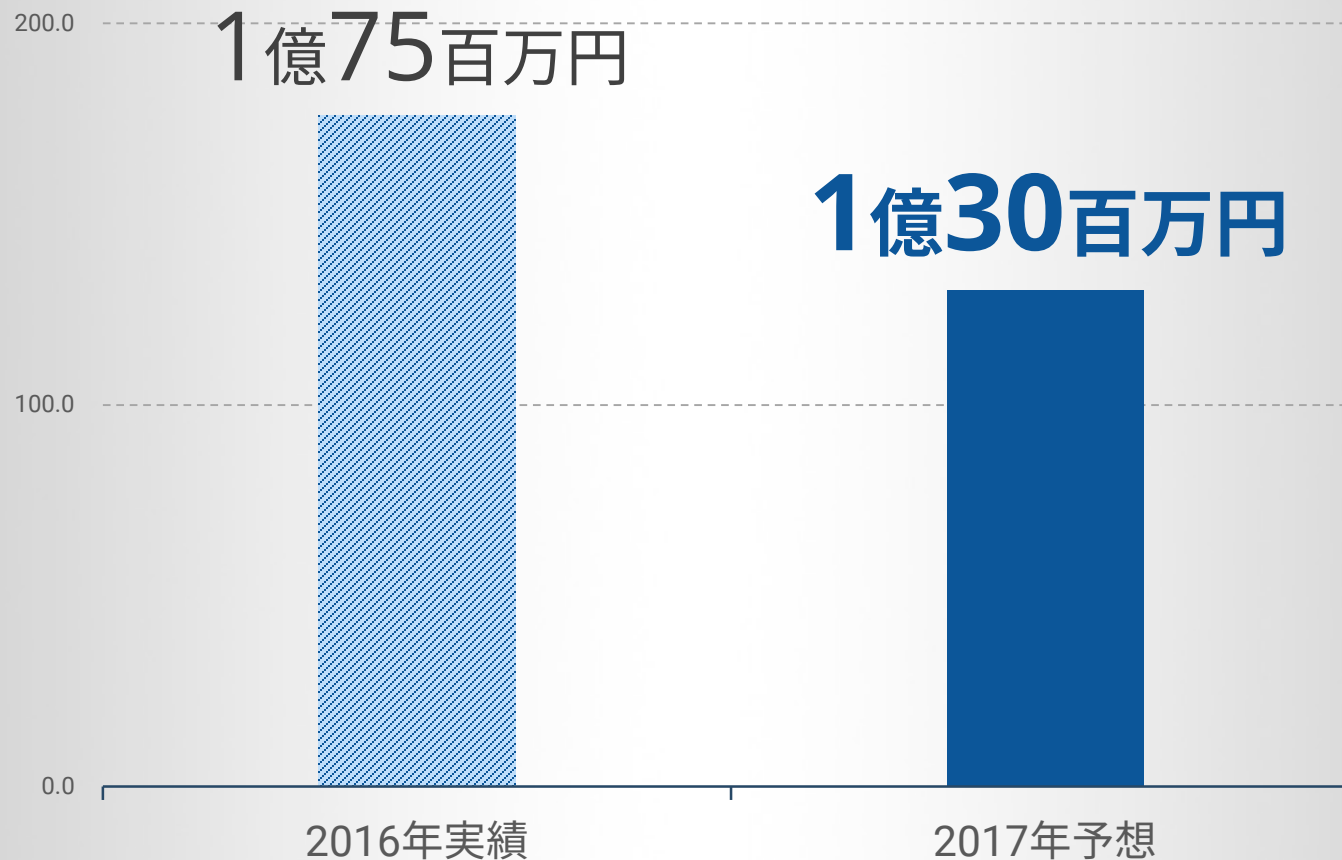
第11期 事業計画

	2016年12月期 実績	2017年12月期 予想	増減額	増減率
売上高	12億82百万円	13億80百万円	97百万円	7.6%
営業利益	1億75百万円	1億30百万円	△45百万円	△26.0%
経常利益	38百万円	1億28百万円	90百万円	236.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△3百万円	59百万円	63百万円	—

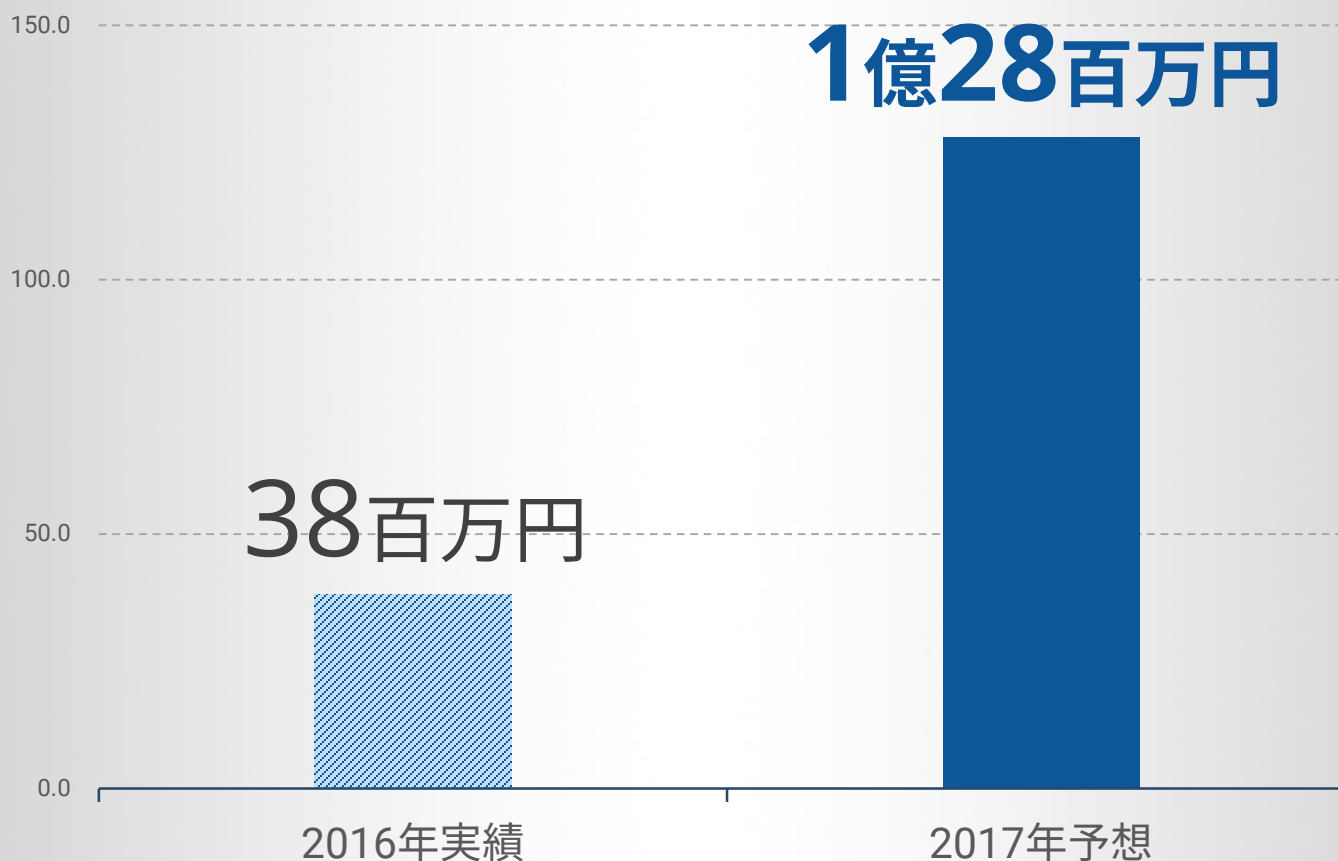
 子会社の売上高増が寄与。



- 本社移転関連費用20百万円が一時的な減益要因。また、買収によるのれん代を40百万円計上。新規分野の開発を加速させるため外注費等の経費増加。



前期は為替差損によって落ち込んでいたが、当期は為替予約やドル建て預金の大幅削減によりリスクを低減し、営業利益と同じ水準の経常利益を確保する見込み。





sMedio



2016年の成果
出荷製品

成果

1. UHD-BD (Ultra High Definition Blu-ray)対応のBDプレイヤーが、大手STBメーカー2社に採用。
2. pConnect!カスタマイズ版が、大手PCメーカー採用。
3. DLNA SDKが、富士ソフトのデジタルテレビソフトウェアパッケージ「FSDTV Middleware」に採用。大手CATV STBメーカー向けに共同開発開始、2017年度に量産開始予定。
4. ブイログBtoB向けソリューション「VLOG Security System Solution」が、セキュリティーインテグレーターに採用、運用を開始。
5. IoT Gateway Device Solutionゲートウェイデバイスソリューションが、アイ・オー・データ機器に採用。商用化に向け共同開発を発表。
6. AIエンジンを搭載した顔認識ソリューションが、大手ICTメーカーに採用。共同開発および実証実験を発表。
7. ミラキャストソリューションが、エプソン スマートグラス「BT-300」に採用。
8. 大手PCメーカーにpConnect!の改修版が採用

課題と対策

1. ブイログ BtoC向けサービス加入数の伸び悩み。
対策: 販売戦略の見直し、BtoBおよびBtoBtoC向けソリューション販売に方向転換。
2. 為替変動による多額の評価損が発生。
対策: 2017年は為替予約実施とドル預金の大幅な圧縮によりリスク低減を図る。

成果

1. タオソフトウェアの大手キャリア向け開発受託と運用受託が順調

クラウドを使った

- ①セキュリティソリューション (RiskFinder)
- ②ビッグデータ処理ソリューション (Speed Tester)
- ③IoTソリューション (BLE見守りサービス)

が2017年以降も拡張予定

2. JSバックアップのダウンロード・OEM端末インストール数が順調にのび、2017年1月末時点で6百万台を超える。

以下の新しい収益モデルが立ち上がった。

- ①MVNO/携帯販売店によるサブスクリプション(月額課金)課金が3社で採用。
- ②メモリーカード大手3社で標準バンドルによる採用が決定。2社は販売開始、もう1社は2017年第1四半期出荷予定。

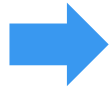
課題と対策

- 1. 技術者不足の継続。
対策:積極的な採用を進めている。

4K、HDRに対応した最新のBlu-ray規格 “Ultra HD Blu-ray”再生ソフトウェア



Full HD
(ハイビジョン)
200万画素



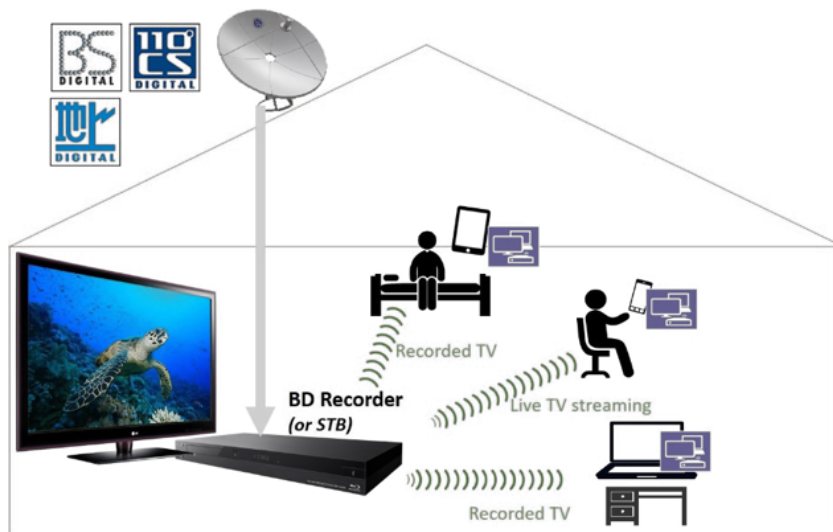
4K Ultra HD
800万画素

1. **超高解像度**・フルハイビジョンの4倍の超高解像度
2. **HDR**・従来の100倍の輝度レンジ(明暗差)を表現可能
3. **超広色域**・自然界に存在する色の99.9%を表現可能

- 家庭用デジタル家電向け Ultra HD Blu-ray 再生ソフトウェア群
- 4K, HDR, 10bit Color, HEVC (H.265) など、最新の映像規格・再生技術に対応
- 汎用のソフトウェア技術として提供され、家電メーカーはUltra HD Blu-ray対応プレーヤー市場投入を素早く実現できる

2016年に家庭用STBや大手家電メーカーのレコーダー用組み込みプレーヤーとして採用

ホームネットワーク内の
TV や HDD レコーダーから
録画番組や、放送中の番組の
配信、視聴、ダビングする機能を提供



プレーヤー機能

- 番組選択を容易にする**カテゴリ表示**
(曜日・カレンダー・チャンネル・ジャンル)
- 録画番組の**視聴、ライブ視聴、録画番組のダビング**が可能
- 国内主要レコーダー機器との**相互接続性**を実機にて検証済み

サーバー機能

- 録画番組の**ムーブ、ダウンロード**に対応
- ムーブ済みコンテンツを、他の機器に**ストリーミング配信**

2014年より東芝 Dynabook
日本国内マーケット向けモデルに搭載

2015年よりSynology, ASUSTOR, QNAPなどの
海外NASTップベンダーに採用

2016年、富士ソフトがデジタル家電向け
組み込み技術として採用

EPSON製 ウェアラブル 端末用 マルチメディア ソフトウェア (Miracast対応 Sinkクライアント)



Android™機器や映像再生機器をワイヤレス
接続し、AR画面上に投影、手元のコントローラ
で操作できるソフトウェア



- 写真・動画や、インターネットの動画配信サイト、アプリの操作画面など、表示内容をAR画面に投影・操作可能
- 映画やTVなどのプレミアム・コンテンツの再生が可能なHDCPコンテンツ保護対応
- Wi-Fi Alliance®のMiracast®規格に準拠
スマートフォン、タブレット等の接続検証済み

2016年12月発売のEPSON MOVERIO BT-300に標準搭載

同Miracast技術は東芝Dynabookシリーズにも標準搭載

EPSON MOVERIOには、Miracastクライアントの他にも、オプションアプリとしてTV視聴、DVD視聴用アプリを提供



600万*1ユーザーを誇る Android・iOS™用 連絡先・カレンダー・写真の バックアップ/データ移行ツール

*1 2017年1月末現在



対応OS

- iOS/Android/Windows®

*Windows 用は、バックアップ先としてWindows PCを利用

特徴

- 簡単操作で、Android / iOS間のデータ移行が可能
- 住所録やスケジュールなど機種・OS異存の高いデータも高い互換性を保持

NTTドコモの推奨データ移行ツールとして、
ドコモショップでの紹介中。

MVNO事業者・携帯電話販売店の店頭で
有料バックアップサービスを展開中。

2016年にiPhone®・Android用外付けメモリ向けの
ツールとしてOEM採用 (SanDisk/東芝)

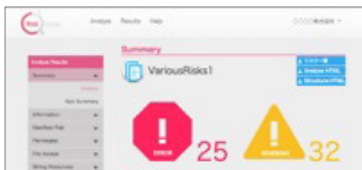


- クラウドレコーディングサービスVLOGをベースに、**接続機器やサービス内容が柔軟にカスタマイズ可能な法人向けサービス。**
- 映像以外にも、**汎用のIoT機器と連携し**、**温湿度、加速度などのセンサーデータを取得・解析することが可能。**
- 顔認識など、**録画データの機械学習・解析にも対応予定。**
- **汎用IPカメラとの接続に対応。(API準備中)**

2016年より、外部顧客向けに販売開始。

サービスの汎用性を向上し、最小の追加開発でサービス開始が可能なパッケージを2017年中に提供予定。

アンドロイドアプリケーション 脆弱性検知システム



個人情報流出、サイバー攻撃などの原因となる、Android™アプリの脆弱性を検出、報告するサービス

RiskID	Level	Message
3	ERROR	デバッグ証明書による署名
12	ERROR	versionCode未定義
13	ERROR	versionName未定義
19	ERROR	sharedUserLabel指定誤り (minSdkVersion指定)
21	ERROR	installLocation指定誤り (サービスの提供)

- Androidアプリのパッケージファイルをアップロードするだけで、高度な知識を必要とする脆弱性、リスク評価のレポートを生成。
- 個人情報流出やサイバー攻撃に繋がる脆弱性(セキュリティホール)検知のほか、著作権保護、ライセンス問題、OS固有の互換性までカバー。
- 新たなセキュリティ問題や最新OSにあわせ、**診断情報も迅速に更新**。
- 開発者による自己評価のほか、**開発委託の受け入れ検査**、テスト業務にも活用可能。
- Androidアプリのセキュリティ対策で高度な知識を持つタオソフトウェアが開発・管理



Android Security 安全なアプリケーションを作成するために
タオソフトウェア 著 インプレスジャパン ISBN: 9784844331346

NTTドコモをはじめ、大手ゲーム会社、証券会社などで導入済み。

アプリ開発会社、大手アプリケーション配信業者に販売中。

セキュリティに関する関心が高まる中、今後の需要増が見込まれる分野。



sMedio



2017年重点施策
出荷予定製品

JSバックアップ

- サブスクリプション(月額課金)型ビジネスをさらに推し進め、顧客層拡大を目指す。
- CPI(Cost per Install)広告を採用し、新たな収益源として広告モデルの導入を図る。
- 大手キャリアが展開するアプリ取り放題サービスへの採用にチャレンジする。

ブイログサービス

- 競争力のあるVLOG統合プラットフォームを上半期にリリースし、BtoBおよびBtoBtoC向けソリューションを強化、収益向上を図る。

IoT関連

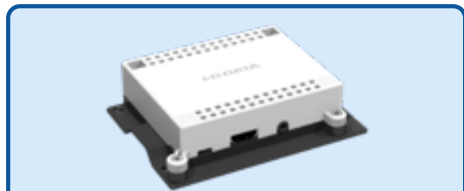
- 顔認識エンジンの商用化版をリリースする。
- IoT Gateway Device Solutionの商用化版をリリースする。

タオソフトウェア関連

- 共同開発およびマーケティングの推進を加速する。

ワイヤレス通信規格、IoT規格の壁を越えて、 相互接続を実現する IoTゲートウェイソフトウェア

クラウドサービス
(集計・分析・コントロール)



sMedio IoT Gateway Device Solution
ソフトウェア

アクチュエータ
(コントロール対象)



センサー
(状態取得)



クライアント
(状態表示、制御)



- IoTゲートウェイとして、Bluetooth[®]、ZigBee[®]をはじめ、様々な無線通信規格をサポート。
- Wi-Fi[®] ルーターとしてはもちろん、Bluetooth、ZigBee の IP接続をサポート。IoT 共通規格による機器間通信を可能に。
- 非IP機器をIPベース機器として動作させる変換アプリを構築可能。過去のハードウェア資産を有効活用。
- 内蔵のHTML5ベースGUIにより、家庭用TVにHDMI[™]接続し、接続機器の状態表示や操作画面を構築可能。
- Linux[™]をベースにした高い汎用性。様々な機器に適用可能。

アイ・オー・データ機器「IoTゲートウェイボックス」に
採用決定。2017年上旬の発売に向け開発中。



顔検知機能、顔学習、顔識別機能を搭載した
顔認識エンジン

- VLOG Face Detectorでは、環境に合わせたチューニングを、それぞれのデバイス毎に行うことで、精度向上を実現。
- 正面画像以外でも、認識が可能。
- 必要な機能を追加することでサービス拡張が容易に。
- クラウド上のGPUを使用するスケーラブルな設計で高スループットを実現。
- 既存のクラウドレコーディングシステム上にVLOG Face Detectorを搭載することで、カメラ側の改修なしに顔認識機能を提供することが可能。

2017年下期より商用化予定。

2017年中に表情認識技術を提供予定。



NTTドコモ ドコモスピードテスト

「ドコモスピードテストアプリ」は、株式会社NTTドコモ様より提供されている通信速度の計測を行うためのアプリケーションです。

お客様自身の通信速度計測はもちろん、周辺のdocomo LTE Xiの速度平均、近くのドコモショップ、docomo Wi-Fiスポット、6か月先までのXiエリア拡大予定など、様々な情報が確認できます。



タオソフトウェアは、Androidアプリ、および、サーバの設計、開発を担当しました。

NTTドコモ様、ユーザーの双方にとって価値のある、高品質、高付加価値のアプリとなるよう、積極的な提案、意見交換を行いながら開発を進め、GooglePlayにて公開されております。

